

令和3年度決算報告書

自 令和 3 年 4 月 1 日
至 令和 4 年 3 月 31 日

公益財団法人 日本防災通信協会

貸借対照表
令和4年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	166,716	133,552	33,164
諸預金	176,862,553	106,814,739	70,047,814
未収金	250,150,028	251,269,953	△ 1,119,925
前払費用	1,718,170	1,701,370	16,800
貯蔵品	1,932,980	2,133,109	△ 200,129
流動資産合計	430,830,447	362,052,723	68,777,724
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
運用財産預金	164,198,236	268,229,421	△ 104,031,185
運用財産有価証券	888,574,590	903,025,070	△ 14,450,480
特定資産合計	1,052,772,826	1,171,254,491	△ 118,481,665
(2) その他固定資産			
建物附属設備	366,748	424,826	△ 58,078
什器備品	2,562,157	3,455,882	△ 893,725
ソフトウェア	1,975,001	676,667	1,298,334
電話加入権	51	51	0
差入保証金	11,729,600	11,729,600	0
その他固定資産合計	16,633,557	16,287,026	346,531
固定資産合計	1,069,406,383	1,187,541,517	△ 118,135,134
資産合計	1,500,236,830	1,549,594,240	△ 49,357,410
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	37,006,197	33,543,793	3,462,404
未払法人税等	423,000	423,000	0
未払消費税	11,330,300	18,863,900	△ 7,533,600
前受金	0	29,040	△ 29,040
預り金	4,271,731	4,244,823	26,908
賞与引当金	44,239,806	45,772,971	△ 1,533,165
流動負債合計	97,271,034	102,877,527	△ 5,606,493
2. 固定負債			
退職給付引当金	87,857,593	81,902,721	5,954,872
固定負債合計	87,857,593	81,902,721	5,954,872
負債合計	185,128,627	184,780,248	348,379
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	1,315,108,203	1,364,813,992	△ 49,705,789
(うち特定資産への充当額)	(1,052,772,826)	(1,171,254,491)	△ (118,481,665)
正味財産合計	1,315,108,203	1,364,813,992	△ 49,705,789
負債及び正味財産合計	1,500,236,830	1,549,594,240	△ 49,357,410

貸借対照表内訳表
令和4年3月31日現在

(単位:円)

科目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合計
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金		166,716		166,716
諸預金	24,089,659	152,772,894		176,862,553
未収金	250,150,028			250,150,028
会計間振替勘定		58,703,449	△ 58,703,449	0
前払費用		1,718,170		1,718,170
貯蔵品	1,932,980			1,932,980
流動資産合計	276,172,667	213,361,229	△ 58,703,449	430,830,447
2. 固定資産				
(1) 特定資産				
運用財産預金		164,198,236		164,198,236
運用財産有価証券		888,574,590		888,574,590
特定資産合計		1,052,772,826		1,052,772,826
(2) その他固定資産				
建物附属設備	359,046	7,702		366,748
什器備品	2,508,352	53,805		2,562,157
ソフトウェア	1,933,525	41,476		1,975,001
電話加入権	50	1		51
差入保証金	11,483,279	246,321		11,729,600
その他固定資産合計	16,284,252	349,305		16,633,557
固定資産合計	16,284,252	1,053,122,131		1,069,406,383
資産合計	292,456,919	1,266,483,360	△ 58,703,449	1,500,236,830
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	2,996,943	34,009,254		37,006,197
会計間振替勘定	58,703,449		△ 58,703,449	0
未払法人税等	423,000			423,000
未払消費税	11,330,300			11,330,300
預り金		4,271,731		4,271,731
賞与引当金		44,239,806		44,239,806
流動負債合計	73,453,692	82,520,791	△ 58,703,449	97,271,034
2. 固定負債				
退職給付引当金	86,979,018	878,575		87,857,593
固定負債合計	86,979,018	878,575		87,857,593
負債合計	160,432,710	83,399,366	△ 58,703,449	185,128,627
III 正味財産の部				
1. 一般正味財産	132,024,209	1,183,083,994		1,315,108,203
(うち特定資産への充当額)		(1,052,772,826)		(1,052,772,826)
正味財産合計	132,024,209	1,183,083,994		1,315,108,203
負債及び正味財産合計	292,456,919	1,266,483,360	△ 58,703,449	1,500,236,830

正味財産増減計算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益	7,830,951	10,257,581	△ 2,426,630
運用財産受取利息	7,830,951	10,257,581	△ 2,426,630
② 事業収益	920,865,750	939,081,101	△ 18,215,351
運用指導収益	781,802,650	801,278,601	△ 19,475,951
保守指導収益	120,817,300	124,064,700	△ 3,247,400
通報装置普及収益	18,245,800	13,737,800	4,508,000
③ 雑収益	2,831,485	2,855,220	△ 23,735
受取利息	1,990	1,575	415
雑収益	2,829,495	2,853,645	△ 24,150
経常収益計	931,528,186	952,193,902	△ 20,665,716
(2) 経常費用			
① 事業費	946,340,108	956,849,677	△ 10,509,569
役員等報酬	53,993,873	54,033,922	△ 40,049
給料手当	526,018,417	527,180,033	△ 1,161,616
退職給付費用	33,265,655	32,319,945	945,710
福利厚生費	98,710,649	98,469,571	241,078
賞与引当金繰入額	43,797,407	45,315,241	△ 1,517,834
運用指導費	24,711,186	24,069,961	641,225
機関紙発行費	24,840,247	24,124,846	715,401
通報装置普及業務費	0	5,051,795	△ 5,051,795
広報費	11,697,015	16,139,938	△ 4,442,923
システム関係費	4,302,220	4,847,838	△ 545,618
会議費	368,289	114,392	253,897
旅費交通費	77,217,263	74,529,720	2,687,543
通信運搬費	5,580,828	1,694,480	3,886,348
減価償却費	2,504,169	2,376,222	127,947
什器備品費	136,921	0	136,921
消耗品費	3,714,015	387,570	3,326,445
印刷図書費	5,334,467	4,102,956	1,231,511
支部事務費	0	10,980,590	△ 10,980,590
賃借料	17,437,557	17,825,389	△ 387,832
事務所費	10,075,883	10,063,914	11,969
諸謝金	1,742,275	1,867,926	△ 125,651
租税公課	182,096	243,775	△ 61,679
雑費	709,676	1,109,653	△ 399,977

科目	当年度	前年度	増減
② 管理費	15,989,197	15,925,336	63,861
役員等報酬	7,152,124	7,163,666	△ 11,542
給料手当	5,313,318	5,325,051	△ 11,733
退職給付費用	336,017	326,465	9,552
福利厚生費	997,078	994,643	2,435
賞与引当金繰入額	442,399	457,730	△ 15,331
システム関係費	43,457	48,969	△ 5,512
会議費	3,721	1,156	2,565
旅費交通費	622,720	601,047	21,673
通信運搬費	56,373	17,116	39,257
減価償却費	25,295	24,003	1,292
什器備品費	1,384	0	1,384
消耗品費	37,516	3,915	33,601
印刷図書費	53,884	41,444	12,440
賃借料	502,317	513,489	△ 11,172
事務所費	376,278	375,831	447
諸謝金	17,599	18,868	△ 1,269
租税公課	548	734	△ 186
雑費	7,169	11,209	△ 4,040
経常費用計	962,329,305	972,775,013	△ 10,445,708
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 30,801,119	△ 20,581,111	△ 10,220,008
運用財産評価損益	△ 18,481,665	△ 4,525,400	△ 13,956,265
評価損益等計	△ 18,481,665	△ 4,525,400	△ 13,956,265
当期経常増減額	△ 49,282,784	△ 25,106,511	△ 24,176,273
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
什器備品除却損	5	7	△ 2
経常外費用計	5	7	△ 2
当期経常外増減額	△ 5	△ 7	2
税引前一般正味財産増減額	△ 49,282,789	△ 25,106,518	△ 24,176,271
法人税・住民税及び事業税	423,000	423,000	0
当期一般正味財産増減額	△ 49,705,789	△ 25,529,518	△ 24,176,271
一般正味財産期首残高	1,364,813,992	1,390,343,510	△ 25,529,518
一般正味財産期末残高	1,315,108,203	1,364,813,992	△ 49,705,789
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	1,315,108,203	1,364,813,992	△ 49,705,789

正味財産増減計算書内訳表
令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位:円)

科目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
①特定資産運用益		7,830,951		7,830,951
運用財産受取利息		7,830,951		7,830,951
② 事業収益	920,865,750			920,865,750
運用指導収益	781,802,650			781,802,650
保守指導収益	120,817,300			120,817,300
通報装置普及収益	18,245,800			18,245,800
④雑収益	2,831,485			2,831,485
受取利息	1,990			1,990
雑収益	2,829,495			2,829,495
経常収益計	923,697,235	7,830,951		931,528,186
(2) 経常費用				
① 事業費	946,340,108			946,340,108
役員等報酬	53,993,873			53,993,873
給料手当	526,018,417			526,018,417
退職給付費用	33,265,655			33,265,655
福利厚生費	98,710,649			98,710,649
賞与引当金繰入額	43,797,407			43,797,407
運用指導費	24,711,186			24,711,186
機関紙発行費	24,840,247			24,840,247
広報費	11,697,015			11,697,015
システム関係費	4,302,220			4,302,220
会議費	368,289			368,289
旅費交通費	77,217,263			77,217,263
通信運搬費	5,580,828			5,580,828
減価償却費	2,504,169			2,504,169
什器備品費	136,921			136,921
消耗品費	3,714,015			3,714,015
印刷図書費	5,334,467			5,334,467
賃借料	17,437,557			17,437,557
事務所費	10,075,883			10,075,883
諸謝金	1,742,275			1,742,275
租税公課	182,096			182,096
雑費	709,676			709,676

	公益目的事業会計	法人会計	内部取引	合計
② 管理費		15,989,197		15,989,197
役員等報酬		7,152,124		7,152,124
給料手当		5,313,318		5,313,318
退職給付費用		336,017		336,017
福利厚生費		997,078		997,078
賞与引当金繰入額		442,399		442,399
システム関係費		43,457		43,457
会議費		3,721		3,721
旅費交通費		622,720		622,720
通信運搬費		56,373		56,373
減価償却費		25,295		25,295
什器備品費		1,384		1,384
消耗品費		37,516		37,516
印刷図書費		53,884		53,884
賃借料		502,317		502,317
事務所費		376,278		376,278
諸謝金		17,599		17,599
租税公課		548		548
雑費		7,169		7,169
経常費用計	946,340,108	15,989,197		962,329,305
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 22,642,873	△ 8,158,246		△ 30,801,119
運用財産評価損益		△ 18,481,665		△ 18,481,665
評価損益等計		△ 18,481,665		△ 18,481,665
当期経常増減額	△ 22,642,873	△ 26,639,911	0	△ 49,282,784
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0		0
(2) 経常外費用				
什器備品除却損	5	0		5
経常外費用計	5	0		5
当期経常外増減額	△ 5	0		△ 5
税引前当期一般正味財産増減額	△ 22,642,878	△ 26,639,911		△ 49,282,789
法人税、住民税及び事業税	423,000			423,000
当期一般正味財産増減額	△ 23,065,878	△ 26,639,911		△ 49,705,789
一般正味財産期首残高	155,090,087	1,209,723,905		1,364,813,992
一般正味財産期末残高	132,024,209	1,183,083,994		1,315,108,203
Ⅱ 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0		0
指定正味財産期首残高	0	0		0
指定正味財産期末残高	0	0		0
Ⅲ 正味財産期末残高	132,024,209	1,183,083,994		1,315,108,203

財 産 目 録
令和4年3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額	
(流動資産)	現金 諸預金	手元保管	運転資金として	166,716	
		普通預金	運転資金として	176,862,553	
		みずほ銀行麹町支店ほか		152,772,894	
		支部現金等みずほ銀行ほか		24,089,659	
	未収金	当年度収益の未収金分		250,150,028	
		テルウェル東日本(株)ほか	運用指導に係る未収金	213,938,478	
		〃	保守指導に係る未収金	32,214,600	
		〃	非常通報装置普及に係る未収金	3,987,500	
		テルウェル西日本(株)	防災通信有償分等に係る未収金	9,450	
	前払費用	当年度に支出した次年度費用		1,718,170	
		大星ビル管理(株)ほか	管理的業務に係る前払費用	1,718,170	
	貯蔵品	当年度期末棚卸高		1,932,980	
		防犯DVD	公益目的事業に係る貯蔵品	1,814,840	
		パンフレットほか	公益目的事業に係る貯蔵品	118,140	
流動資産合計				430,830,447	
(固定資産)					
特 定 資 産	普通預金 定期預金 有価証券	みずほ銀行麹町支店	管理的業務を賄うための運用目的の特定資産	1,052,772,826	
		みずほ銀行麹町支店	管理的業務を賄うための運用目的の特定資産	4,198,236	
		野村證券株式会社	管理的業務を賄うための運用目的の特定資産	160,000,000	
		(利付国債144回ほか)		698,118,590	
		SMBC日興証券株式会社	管理的業務を賄うための運用目的の特定資産	140,451,000	
		(利付国債153回ほか)		50,005,000	
	その他固定資産	大和証券株式会社	管理的業務を賄うための運用目的の特定資産		
		(利付国債323回)			
		建物附属設備	間仕切り工事	公益目的事業(97.9%)及び管理的業務(2.1%)で使用	16,633,557
					366,748
その他固定資産	什器備品	会議室テーブル・応接セットほか	公益目的事業(97.9%)及び管理的業務(2.1%)で使用	2,562,157	
	ソフトウェア	PCA公益法人会計更新	公益目的事業(97.9%)及び管理的業務(2.1%)で使用	1,975,001	
	電話加入権	本部5回線、支部46回線	公益目的事業(97.9%)及び管理的業務(2.1%)で使用	51	
	差入保証金	千代田区麹町2丁目14番2ほか 麹町NKEビルに対する保証金ほか	公益目的事業(97.9%)及び管理的業務(2.1%)で使用	11,729,600	
固定資産合計				1,069,406,383	
資産合計				1,500,236,830	

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動負債)	未払金	当年度経費の未払分 (株)雄進プラスほか 佐川急便株式会社ほか	公益目的事業に係る未払金 管理的業務に係る未払金	37,006,197 2,996,943 34,009,254
	未払法人税等		公益目的事業に係る均等割	423,000
	未払消費税	麴町税務署	公益目的事業及び管理的業務に係る確定消費税	11,330,300
	預り金	役職員からの預り金	公益目的事業及び管理的業務に従事する役職員の源泉所得税・住民税等	4,271,731
	賞与引当金		公益目的事業及び管理的業務に従事する職員の賞与に係る引当金	44,239,806
流動負債合計				97,271,034
(固定負債)	退職給付引当金	役職員に対するもの	公益目的事業及び管理業務に従事する役職員の退職金	87,857,593
固定負債合計				87,857,593
負債合計				185,128,627
正味財産				1,315,108,203

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

「公益法人会計基準」(平成20年4月11日、平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会)を採用している。

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)を採用している。

満期保有目的の債券並びに子会社株式及び関連会社株式以外の有価証券

① 時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法を採用している。

② 時価のないもの

移動平均法による原価法を採用している。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入による原価法を採用している。

(3) 固定資産の減価償却

① 有形固定資産

定率法を採用している。

② 無形固定資産

定額法を採用している。

③ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用している。

(4) 賞与引当金の計上基準

職員に対する賞与の支給に備え、賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上している。

(5) 退職給付引当金の計上基準

役員、職員の退職金の支給に備えるために、自己都合退職による期末要支給額の全額を計上している。

(6) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外の重要性の乏しいファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借処理に係る方法に準じた会計処理によっている。

(7) 消費税等の会計処理

税抜方式によっている。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
運 用 財 産 預 金	268,229,421	286,413,474	390,444,659	164,198,236
運 用 財 産 有 価 証 券	903,025,070	167,623,641	182,074,121	888,574,590
合 計	1,171,254,491	454,037,115	572,518,780	1,052,772,826

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳はつぎのとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
運 用 財 産 預 金	164,198,236		(164,198,236)	
運 用 財 産 有 価 証 券	888,574,590		(888,574,590)	
合 計	1,052,772,826	0	(1,052,772,826)	

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建 物 附 属 設 備	2,515,000	2,148,252	366,748
什 器 備 品	14,517,398	11,955,241	2,562,157
ソ フ ト ウ ェ ア	6,221,040	4,246,039	1,975,001
合 計	23,253,438	18,349,532	4,903,906

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は次のとおりである。

(単位:円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
第 323 回 国 債 大 和 証 券	50,005,000	50,105,000	100,000
第 144 回 国 債 野 村 證 券	49,906,500	56,671,500	6,765,000
第 145 回 国 債 野 村 證 券	30,033,500	34,709,310	4,675,810
第 323 回 国 債 野 村 證 券	50,005,000	50,106,300	101,300
合 計	179,950,000	191,592,110	11,642,110

6. 関連当事者との取引の内容

該当する取引はない。

附 属 明 細 書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記2に記載しております。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科 目	期 首 残 高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞 与 引 当 金	45,772,971	44,239,806	45,772,971		44,239,806
退職給付引当金	81,902,721	33,601,672	27,646,800		87,857,593

独立監査人の監査報告書

令和4年5月26日

公益財団法人 日本防災通信協会
理 事 会 御 中

監査法人 不二会計事務所

東京都台東区

代 表 社 員

業務執行社員 公認会計士

水谷



<財務諸表等監査>

監査意見

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づく監査に準じて、公益財団法人日本防災通信協会の令和3年4月1日から令和4年3月31日までの令和3年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドラインI-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、あわせて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書並びに財産目録のうち意見の対象とされていない部分である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

<財産目録に対する意見>

財産目録に対する監査意見

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に基づく監査に準じて、公益財団法人日本防災通信協会の令和 4 年 3 月 31 日現在の令和 3 年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

利害関係

法人と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監 査 報 告

公益財団法人 日本防災通信協会

理事長 横 内 泉 殿

私ども監事は、令和3年4月1日から令和4年3月31日までの令和3年度における会計及び業務の監査を行い、その結果を次のとおり報告する。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、公認会計士から監査の手続き及び監査結果等について説明を求めるとともに、帳簿並びに関係書類の閲覧、調査を行い、当該事業年度における計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他会議に出席し、理事からの業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧等、必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査の結果

- (1) 会計監査人である監査法人不二会計事務所の監査の方法及び監査の結果は妥当である。
- (2) 事業報告の内容は法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。
- (3) 理事の職務執行について、法令もしくは定款に照らし違反する事実は認められない。

令和4年5月27日

公益財団法人 日本防災通信協会

監事 出 原 健 三



監事 梶 山 正 浩

